

- 1 大年や明日海峡渡る人
- 2 おほかたは背中を丸めて初御空
- 3 波音のはつきりしたる大旦
- 4 元旦や渡し船にも大漁旗
- 5 春着きてなおも孤独の妊婦かな
- 6 初電話をんなが語る幸福論
- 7 見上げれば母の笑顔や福笑ひ
- 8 福寿草胎児に語ること多し
- 9 指先を柔らかくして若菜摘む
- 10 どんと焼静かな村の小一時
- 11 ふるさとの寒九の水を戴きぬ
- 12 根つこまで笑つてそうな雪解かな
- 13 梅ひらく何かと縁のある寺に
- 14 臨月の見事の胎や梅二月
- 15 胎の児の蹴りの強さよ春近し
- 16 春暁の夢打ち砕く妻のこゑ
- 17 眉太き赤児生まれし山笑ふ
- 18 ふにやふにやの赤児抱き上げ春の山
- 19 春満月幼馴染みを連れて来し
- 20 自転車と寝そべつてゐる花野かな
- 21 揚雲雀ふるさと見ゆる高さまで
- 22 恋心芽生ゆる園児つくしんぼ
- 23 たんぽぽや廃線跡の遊歩道
- 24 肩車先へ先へと花菜風
- 25 ママの手とさよならできぬ入園児
- 26 この土地に親子三代桐の花
- 27 中年の涙は脆く亀鳴けり
- 28 新装の老舗旅館に燕来る
- 29 ポケットにおしやぶりしまひ春惜しむ
- 30 みどり児の布団蹴り出す立夏かな
- 31 引出しに妻の恋文リラの花
- 32 あぢさゐの径ゆつくりと宮参り
- 33 青梅雨の途切れがちなるピアノかな
- 34 おっぱいを外せば泣く児明易し
- 35 陽炎や島にひとつの信号機
- 36 笑ひ合ふ妻と子供にシャボン玉
- 37 時計草風に当たりて更くるかな
- 38 黴の香や旅の手帖を開く時
- 39 山寺の参道長し蛇の殻
- 40 ライオンのたてがみ揺らぐはたた神
- 41 母の手をぎゅつと握るや初螢
- 42 母も子もひとつの螢いとほしむ
- 43 大蛍採つて見せよと言はれても
- 44 どの道も海に繋がる島の夏
- 45 サングラス外して赤児抱きにけり
- 46 赤児抱く左腕から日焼せし
- 47 胸元のほくろ気になる藍浴衣
- 48 握り良きをんなの右手火花待つ
- 49 横たはる鯨の夢や夏銀河
- 50 猛獣の瞼重たき南風

- 75 コスモスの高さとなつて子を抱きぬ
- 74 満目の花野の中にバス停まる
- 73 秋空を全うしたる家族かな
- 72 走りゐる風から子供運動会
- 71 客人は明日来るらし月天心
- 70 弓なりに月を見上げる赤児かな
- 69 聞き役に徹してをりぬ月見豆
- 68 みどり児の眠りし庭のちちろ虫
- 67 年老いて分かることあり今朝の秋
- 66 夕風や煙草を切らす旅の宿
- 65 葡萄棚選挙の声の裏返る
- 64 かなかなやふるさとのこと親のこと
- 63 これからは自分のために盆の空
- 62 送り火の燃えたるのちの夜風かな
- 61 蚊遣香広げしままの旅の地図
- 60 村百軒出産祝ふ祭かな
- 59 幼さの残る鎖骨に水着跡
- 58 おつぱいは幸せな味敗戦日
- 57 黒百合のそつぽ向きゐる花時計
- 56 警官がときどき覗く金魚鉢
- 55 ひまはりや海まで百歩無人駅
- 54 子守する人も静かに昼寝かな
- 53 乳くさき赤児を寝かせ髪洗ふ
- 52 乳足りし赤児寝転ぶ夏座敷
- 51 風鈴のほどよき風の高さかな
- 76 歌姫のくちびる豊か酔芙蓉
- 77 捨子花傷つくことを怖れけり
- 78 最後まで残りし白の曼珠沙華
- 79 鬼蓮や親を真似して子は育つ
- 80 牛蒡引く米寿卒寿の力瘤
- 81 手元より暮れてゆくなり吾亦紅
- 82 靴を脱ぐ大道芸人木の実落つ
- 83 神無月廃れし村の道祖神
- 84 カンパスは未だ真白や雁渡る
- 85 紅葉川いつしか妻と二人きり
- 86 残菊の芥の中に地藏かな
- 87 時雨るるや流離の果てにある故郷
- 88 冬ざれやゆつくり溶ける角砂糖
- 89 風花やホットミルクに薄い膜
- 90 冬銀河明日の糧の米を研ぐ
- 91 眠る子を起こすことなく俄か雪
- 92 愚痴こぼす人から離れ温め酒
- 93 熱爛や昭和が残るガード下
- 94 よく聞けば訛ある女医冬ぬくし
- 95 掛け直す絶交中の子の毛布
- 96 饒舌な妻に相づち蜜柑剥く
- 97 凍月や子供が正す子守唄
- 98 手袋の片割れ拾ふ通夜の露地
- 99 捨てきれぬ赤児の靴や十二月
- 100 をとこにも乳房ありけり雪女郎